



大学基準協会2025年度事例報告会

# 共立女子大学における内部質保証の 実質化への取り組み

—学長裁量経費の活用、学生の参画、IR情報の活用、組織基盤の構築—



千代田区一ツ橋の共立講堂と本館

2025年7月7日（月）Web開催

共立女子大学

副学長（内部質保証等担当）

山口 庸子

大学企画課教学企画グループ

グループリーダー

川久保 源太

# 目次

1. 共立女子大学の概要
  - a. 基本情報
  - b. 教育の特色
2. 内部質保証システムの概要
3. PDCAサイクルの実質化への取り組み
  - a. 学長裁量経費の活用
  - b. 学生の内部質保証への参画
  - c. IR情報の活用
  - d. 組織基盤の構築
4. 今後に向けて



共立講堂正面と講堂内部

# 1. 共立女子大学の概要

## a. 基本情報

法人名 共立女子学園

所在地 東京都千代田区一ツ橋2-2-1

### 教育研究組織（7学部4研究科）

大学：家政学部、文芸学部、国際学部、看護学部、  
ビジネス学部、建築・デザイン学部（2024年4月開設）  
児童学部（2026年4月開設）

大学院：家政学研究科（博士前期・後期課程）  
文芸学研究科、国際学研究科、看護学研究科

### 学生数【収容定員】（2025年5月1日時点）

学部学生 5,478人【5,180人】大学院学生 52人【153人】

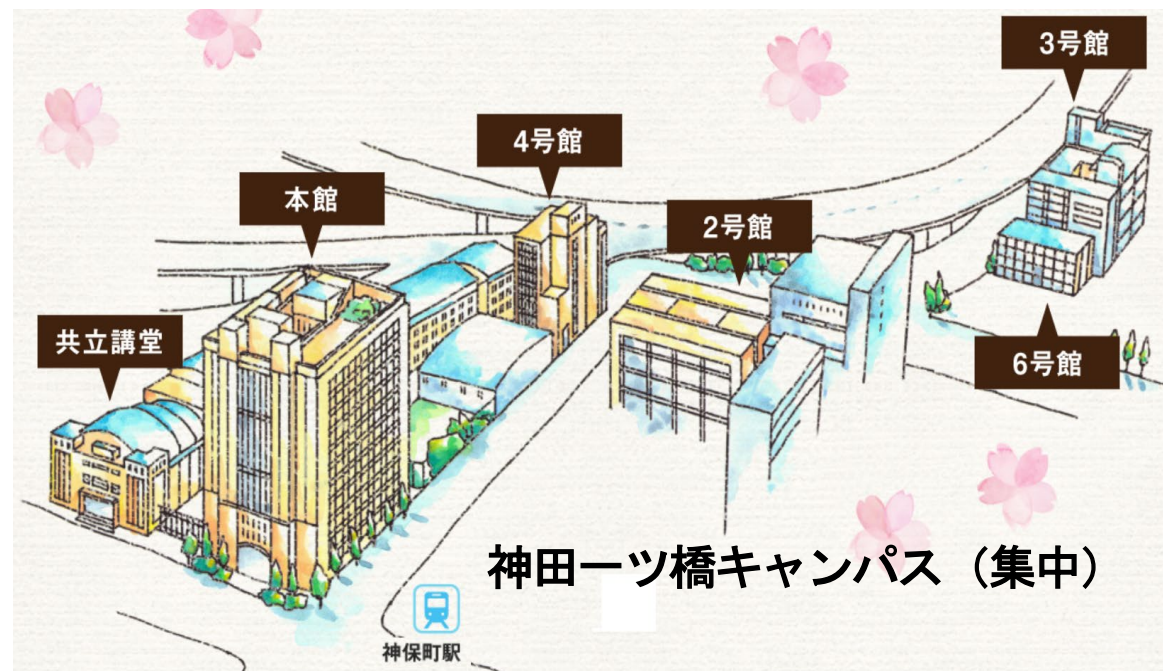
### 教職員数（2025年5月1日時点）

教員 170人（助手64人）計234人、職員 124人

### キャンパス体制

神田一ツ橋キャンパス（2007年度全学部集中化）

八王子キャンパス（グラウンド／図書館（蔵書保管として利用））



# 1. 共立女子大学の概要

## b. 教育の特色①

➤ 大学基準協会による認証評価の結果

【長所】

### 基準4「教育課程・学習成果」

建学の精神を実現する教育として、「他者と協働して目標達成を目指す力」を養う「リーダーシップ」教育を実施し、現代社会に求められる「リーダーシップ」を身につけた人材を養成している。

### 基準7「学生支援」

担任がアカデミック・アドバイザーを務め、学生の履修から進路の状況に至るまで助手、職員と連携して入学時から一人ひとりに寄り添った支援を行い、全ての学生との定期的な面談を通じて学生の学習状況等を把握し、きめ細かな指導・支援を行っている。

# 1. 共立女子大学の概要

## b. 教育の特色②（教育理念と共立リーダーシップ）

創立1886（明治19年）

建学の精神

校訓

女性の自立と自活 誠実、勤勉、友愛



教育指針・行動指針

2023年（第三期中期計画）

## リーダーシップの共立®

共立女子学園は、「女性の自立と自活」、「誠実、勤勉、友愛」という建学の精神と校訓に基づいて、他者と協働して自分らしいリーダーシップを発揮し、社会の様々な分野で活躍できる自立した人材を養成する教育機関を目指します。

### 共立リーダーシップ

建学の精神

女性の自立と自活

校訓

誠実・勤勉・友愛

たの  
みずからを待み「自立」し、「友愛」により他者と協働して

目標達成を目指す力

リーダーシップの3要素+1

「目標の設定と共有」「率先垂範」「相互支援」+「包容性」

【今までのリーダーシップ】



人に指示を出し、  
引っ張っていくリーダー。

トップダウン型

【本学で学ぶリーダーシップ】



「他者と協働して  
目標達成を目指す力」

相互支援型



# 1. 共立女子大学の概要

## b. 教育の特色③（共立リーダーシップの実質化）

### KWUビジョン

2018年(第二期中期計画)

- ①自律と努力(精神的自立)
- ②創造とキャリア(職業的自立)
- ③協働とリーダーシップ(社会的自立)

2020年度教養教育の再編（3つの自立コア）

### ビジョン2032

2023年(第三期中期計画)

誰もが「Major in Anything. Minor in Leadership.®」を

(主専攻は様々な専門分野、副専攻はリーダーシップ)

実感できる大学・短期大学

リーダーシップ教育推進センター（2022年新設）、共通教育センター

## <充実に向けた活動>

- ・ 2024年度「共立リーダーシップGP(グッドプラクティス)」の本格化  
「共立リーダーシップ」の充実に向けた全学的プロジェクト、正課・正課外の促進・支援
- ・ 全学必修科目「課題解決のためのリーダーシップ入門」の開講  
「共立リーダーシップ」の基礎を、1年次に全ての学生が学ぶ(2025年度導入)
- ・ 教養教育に「リーダーシップ開発プログラム」設置(2025年度)  
リーダーシップ開発実践(選択必修科目) リーダシップ開発応用(選択科目)

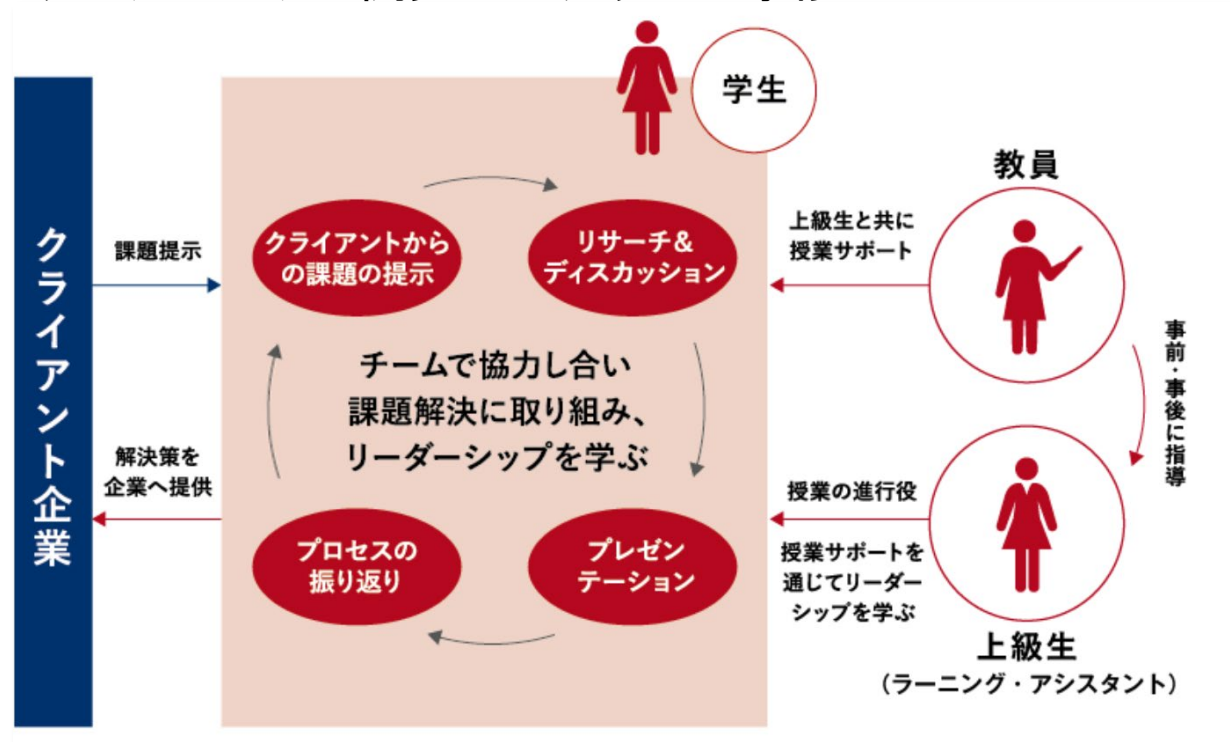


2025年3月1日共立講堂にて開催

# 1. 共立女子大学の概要

## b. 教育の特色④（事例：リーダーシップ開発プログラム）

リーダーシップ開発プログラムの学修フロー



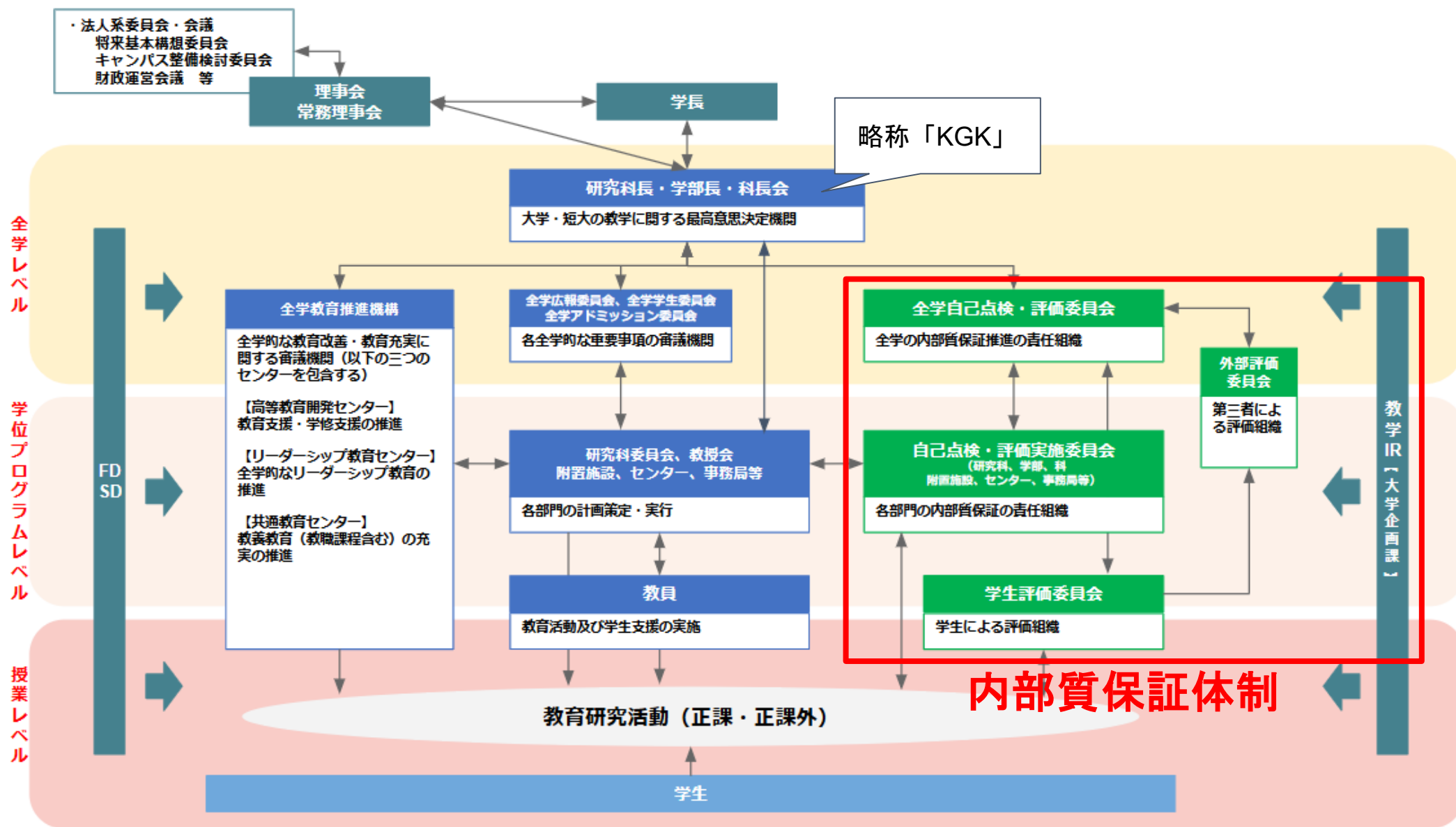
### <主な特長>

- **連携企業が提示する「課題」にチームで挑む**  
チームで分担してリサーチ、議論、提案をまとめ、プレゼンテーションや振り返りを行う「課題解決型」の授業
- **LA (Learning Assistant) という上級生の存在**  
チーム学修をサポートする本プログラムを修了した学生であり、目標とするロールモデル

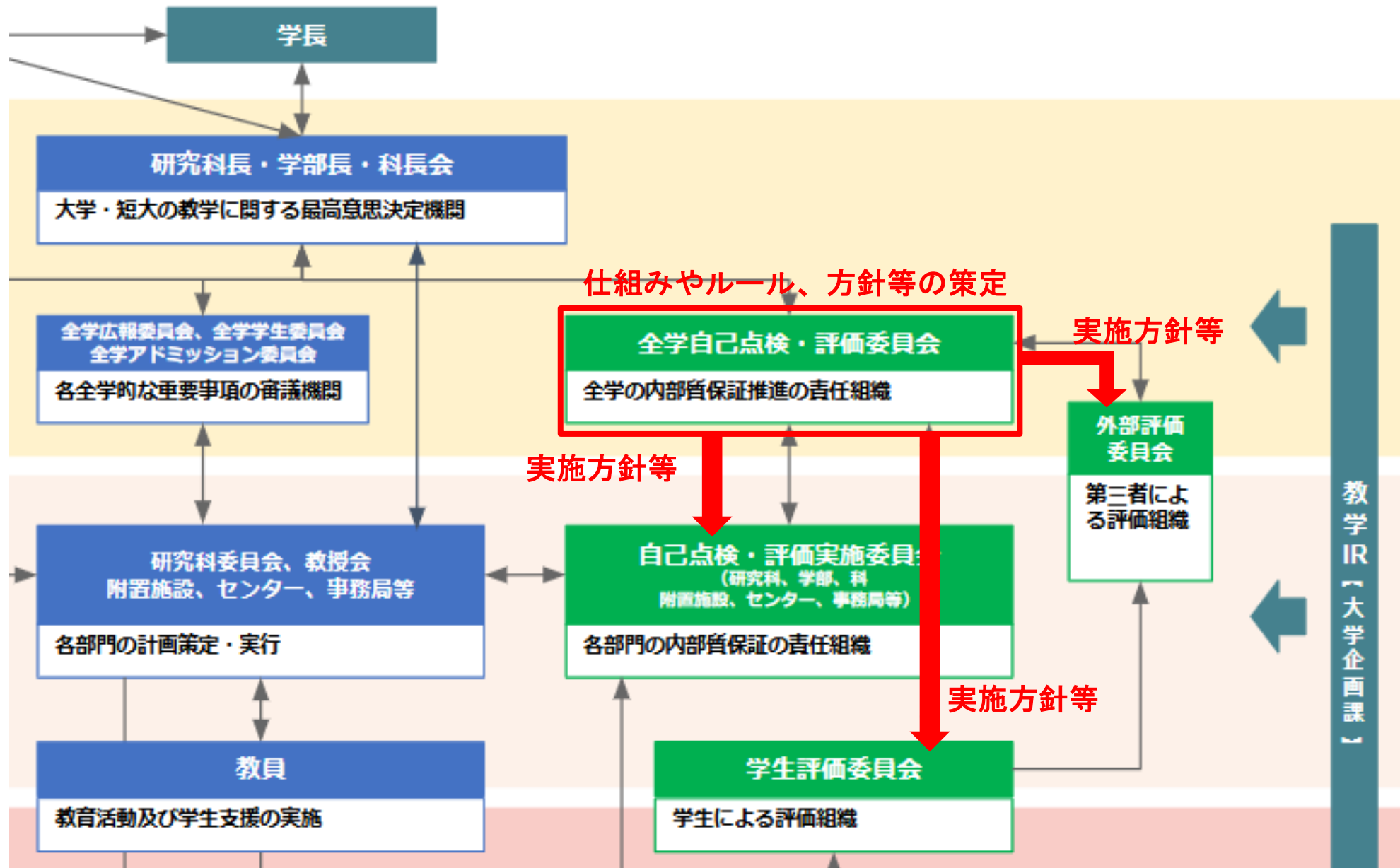
リーダーシップの3要素+1

「目標の設定と共有」「率先垂範」「相互支援」+「包容性」

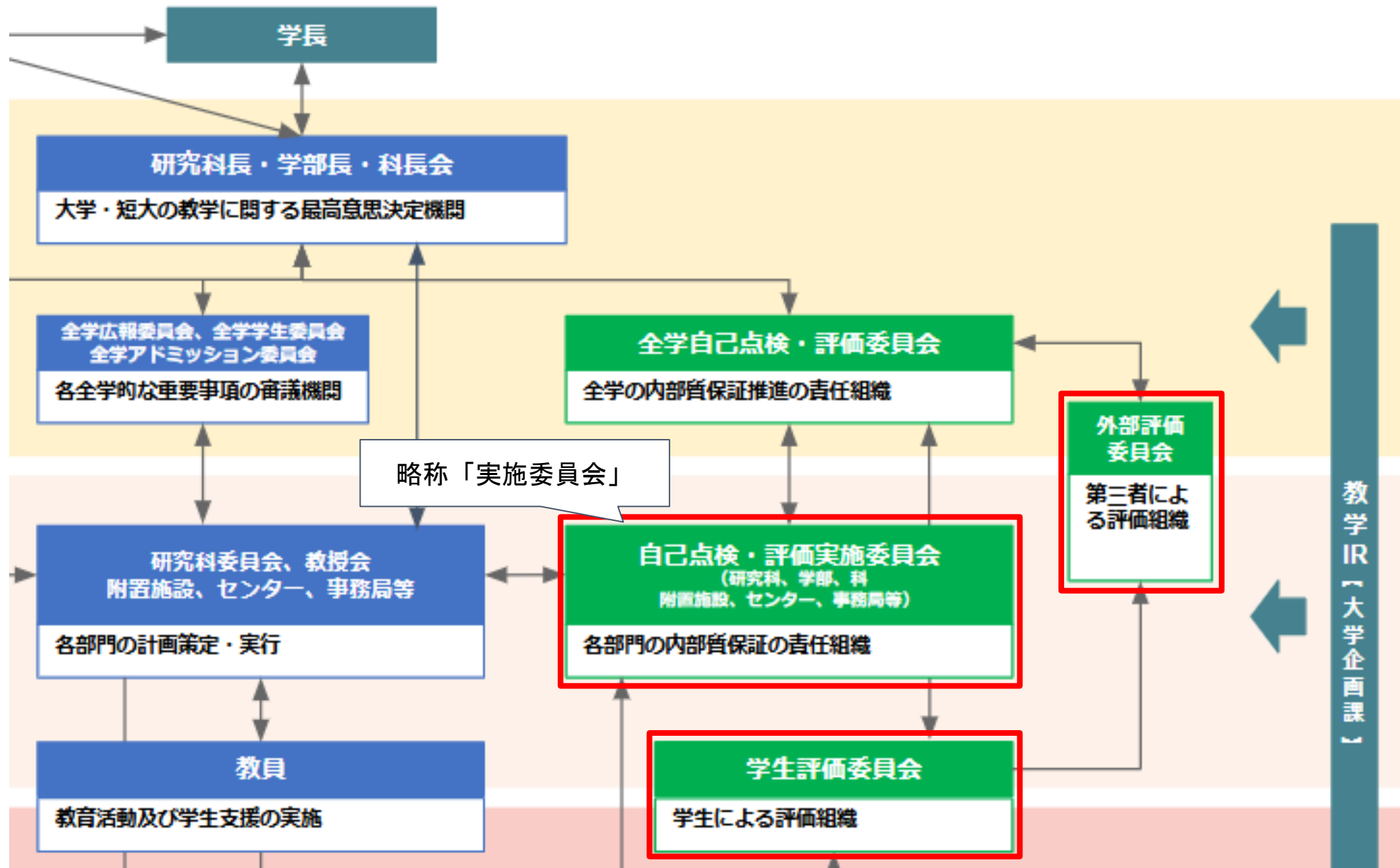
## 2. 内部質保証システムの概要



## 2. 内部質保証システムの概要



## 2. 内部質保証システムの概要



## 2. 内部質保証システムの概要

Do

各部門が改善計画に基づいて教育研究活動を実施

全学自己点検・評価委員会が方針等を策定

各学位プログラムでは、全学の方針に基づいて、実施委員会が主体となってプログラムレベルのPDCAサイクルを回す。

Check

各評価委員会が方針に則って点検・評価を実施

IR情報に基づいて点検・評価を実施

全学自己点検・評価委員会が各評価結果に基づいて  
自己点検・評価報告書を作成

<評価委員会の種類>

- 自己点検・評価実施委員会
- 学生評価委員会
- 外部評価委員会

研究科長・学部長・科長会が全学的な自己点検・評価結果を確認・承認

Action

↓  
Plan

全学自己点検・評価委員会が各部門に重点計画の策定を依頼、学長が自己点検・評価結果に基づいて  
各部門に改善を指示

各部門が重点計画と改善指示への対応計画を策定、また学長裁量経費への予算申請

研究科長・学部長・科長会が計画・予算の承認

## 2. 内部質保証システムの概要

### □内部質保証に関する方針、ルール等

| 方針等               | 概要                              | 備考    |
|-------------------|---------------------------------|-------|
| 自己点検・評価規程         | 内部質保証に関する最も根本的な目的や基本事項を定めている。   | 基本固定  |
| 内部質保証に関する方針       | 内部質保証を推進する上での大枠（フレームワーク）を定めている。 | 基本固定  |
| アセスメントプラン         | 大学・短期大学として点検・評価すべき項目の大方針を定めている。 | 基本固定  |
| 自己点検・評価に関する実施方針   | 当年度の自己点検・評価方法を定めている。            | 毎年見直し |
| 点検・評価項目、評価指標、評価基準 | 当年度に点検・評価すべき具体的な項目を定めている。       | 毎年見直し |
| 自己点検・評価の手引き       | 上記方針等を要約し集約している他、詳細な手続方法を定めている。 | 毎年見直し |

## 2. 内部質保証システムの概要

### 内部質保証

共立女子大学・共立女子短期大学では、大学（研究科含む）・短期大学の理念・目的、教育目的および各種方針の実現に向けて、すべての組織・部門が自主的かつ自律的にその質の向上に向けた改革・改善活動を恒常的に策定・実施することを目指し、内部質保証に関する方針と体制（システム図）を定めています。

#### 内部質保証に関する方針

共立女子大学、共立女子短期大学は、内部質保証を推進するために、以下のとおり、方針を定める。

##### 1. 全学的な内部質保証に関する方針

1. 本学における内部質保証は、大学（研究科含む）・短期大学の理念・目的、教育目標および各種方針の実現に  
つ自律的にその質の向上に向けた改革・改善活動を恒常的に策定・実施することを目指す。
2. 全学的な内部質保証の推進に責任を持つ「全学自己点検・評価委員会」を置く。「全学自己点検・評価委員  
会」を通じて、本学の理念・目的および各種方針の実現に向けた活動の優れている点や改善を要する点を明らかに  
する。
3. 学長は、自己点検・評価結果を受けて、改善が必要と思われる事項について研究科、学部、科、機構、附属が  
所属する各組織、法人事務部（以下、「各部門」という）の長へ改善指示をする。
4. 内部質保証の推進状況を検証するために「外部評価委員会」を置く。
5. 自己点検・評価結果と外部評価の結果については、社会に対して積極的に公表する。

### 共立女子大学3つのポリシー アセスメントプラン

[HOME](#) > [学部・短大・大学院／教育](#) > 共立女子大学3つのポリシー アセスメントプラン

共立女子大学は、学生の学修成果の可視化を通して、学生の達成状況を点検・評価し、本学の教育活動の改善に活用するために、以下の通りアセスメントプランを定めます。

### 1. ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）の評価

ディプロマ・ポリシーに掲げる資質・能力の達成状況を以下の項目を用いて評価します。評価をするにあたっては、ディプロマ・ポリシーの策定単位で集計し、大学全体レベル、学位プログラムレベルの評価に活用します。評価結果に応じて教育課程の変更等を行います。

#### （1）ディプロマ・ポリシーの成績連動及び自己評価

成績連動は、半期に一度、カリキュラム・マップと成績評価を連動させて、ディプロマ・ポリシーで定めた各観点がどの程度伸長しているのかを可視化します。自己評価は、各年度末に、ディプロマ・ポリシーで定めた各観点に対する自己評価を行います。成績連動では各観点の伸長度を、自己評価では各観点の回答件数を評価に活用します。

#### （2）アセスメント科目のルーブリック評価

## 2. 内部質保証システムの概要

### 2024年度自己点検・評価活動に関する実施方針 （※一部抜粋及び要約しています）

- 2024年度の自己点検・評価は、「前年度の自己点検・評価結果に基づく改善計画に関する点検・評価」と「アセスメントプラン及び大学評価基準に基づく点検・評価」の二つの相補的な点検・評価から、複眼的な評価システムを構築・実施している。

I. 学長からの改善指示に対する実施計画の点検・評価

II. 各実施委員会で設定した重点計画の点検・評価

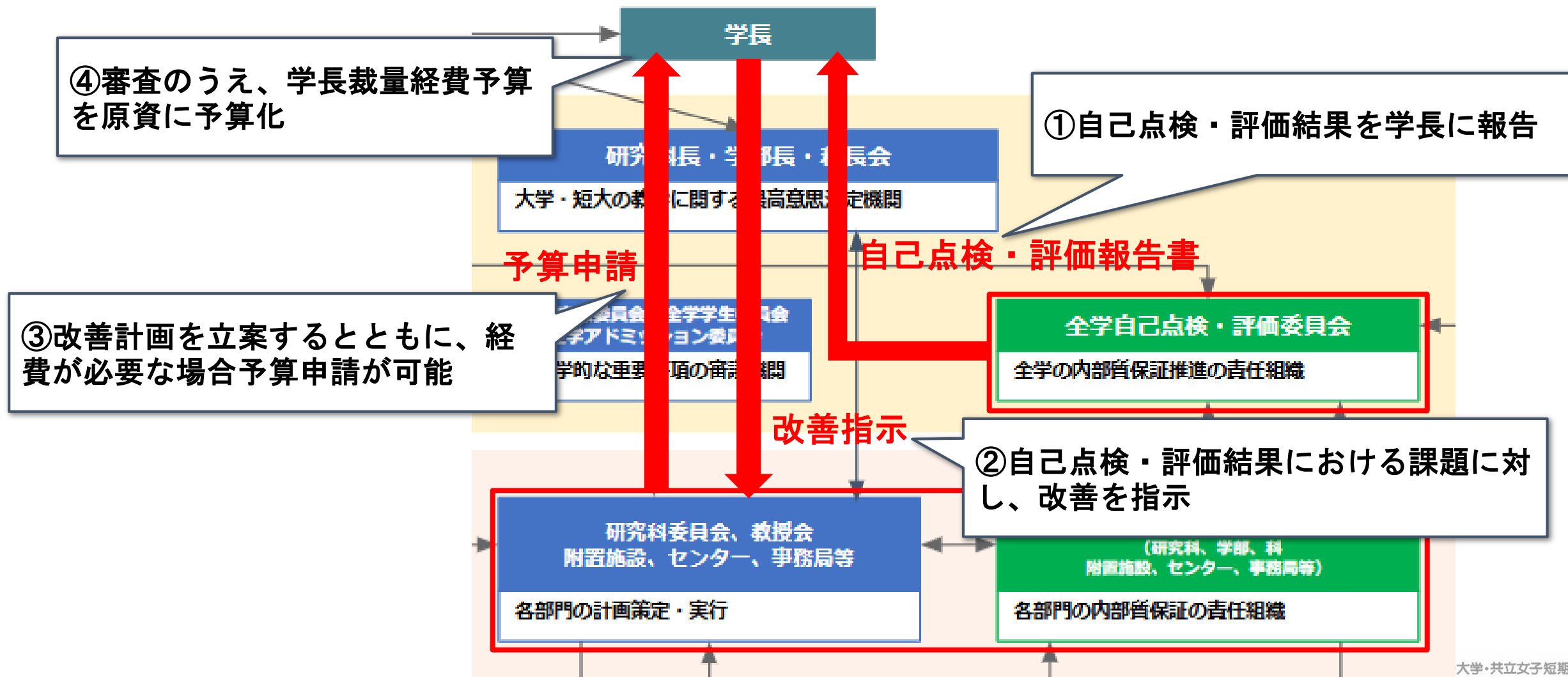
改善計画に関する  
点検・評価

III. 点検・評価項目に基づく点検・評価

アセスメントプラン  
及び大学評価基準に  
基づく点検・評価

### 3. PDCAサイクルの実質化への取り組み

#### a. 学長裁量経費の活用



### 3. PDCAサイクルの実質化への取り組み

#### a. 学長裁量経費の活用

##### <本制度の特長>

- **即効性**：財務部門との調整が不要で、学長の判断で予算配分を当年度中に実行することができるため、課題にすぐアプローチすることができる。
- **PDCAサイクルの実質化**：予算が担保され、また、即時対応により課題の風化を防ぐことができるため、実効性のある改善サイクルを実現することができる。

##### <本制度の活用実績>

|                   |       | 2022年度     | 2023年度      | 2024年度     |
|-------------------|-------|------------|-------------|------------|
| 学長裁量経費による<br>支援実績 | 計画数   | 11件        | 15件         | 12件        |
|                   | 予算採択額 | 9,996,500円 | 11,545,790円 | 5,849,800円 |

### 3. PDCAサイクルの実質化への取り組み

#### b. 学生の内部質保証への参画

##### ＜学生評価委員会の概要＞

- 学生自身が教育活動のアセスメントに参画する「参加型評価」
- 各学位プログラムから2名選出し、年に2回委員会を開催する。
- 各回において、教室内の活動や学生調査のみでは確認しにくい学習実態や教育効果を問う評価テーマを設定し、そのテーマに沿って対面グループワーク形式で評価を実施
- 学生評価委員の主体性を高めるための取り組みを導入
  - 学生評価委員会としての意識づけ（事前動画視聴、事前アンケート）、事後リフレクションの導入 など
- 評価結果を全学自己点検・評価委員会及び外部評価委員会に報告

### 3. PDCAサイクルの実質化への取り組み

#### b. 学生の内部質保証への参画

##### <評価テーマ実績>

| 年度   | 第1回                                                  | 第2回                   |
|------|------------------------------------------------------|-----------------------|
| 2021 | 100 分授業について                                          | オンデマンド授業について          |
| 2022 | kyonet※ の教育効果について(学修ポートフォリオ、<br>掲示、クラスプロフィール、Q&A など) | 大学での学修における PC の活用について |
| 2023 | 「授業評価アンケート」のよりよいあり方について                              | 「リーダーシップの共立」の取組みについて  |
| 2024 | 学修環境について～学びの場としてのより良い環境<br>について～                     | 「リーダーシップの共立」の取組みについて  |

※kyonet・・・共立女子大学における教務システムの名称

### 3. PDCAサイクルの実質化への取り組み

#### b. 学生の内部質保証への参画

##### <改善例>

###### 学生評価委員会（2021年度第1回）

授業時間が90分から100分に変更となったことについて、学生がその目的を十分に把握しておらず、また、教員側も100分授業のデザインへの理解が十分でないという評価結果となった。

###### 学長

全学の自己点検・評価報告書を受けて、各課題に対して改善を指示。100分授業については高等教育開発センター対し、変更したことによる影響を確認するとともに、次なる改善を指示。

###### 高等教育開発センター

教員向け授業支援サイトに100分授業の進め方に関するページを開設。授業の再構築のポイント等を解説した支援コンテンツを掲載。

### 100分授業の進め方

100分授業の概要や留意点、授業手法をご紹介します

#### 100分授業の概要

| 概要・授業の考え方                                                                                | Benefits of 100-minute classes                                                                                                                        |
|------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <ul style="list-style-type: none"><li>学長からのメッセージ</li><li>授業再構築のための4ポイントをご紹介します</li></ul> | <ul style="list-style-type: none"><li>Benefits of 100-minute classes</li><li>Key Points for Reconstructing Classroom and Pre-/Post-learning</li></ul> |
| <a href="#">こちらをクリック</a>                                                                 | <a href="#">Click here</a>                                                                                                                            |

#### 100分授業のデザイン

| 授業を構成する上で意識すべきポイント                                                                                                                                                                                                                                                                          | +10分の効果的な使い方                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>※kyoritsuIDにログインの上クリックしてください</p> <p>FD研修会①&lt;2020.11.12開催&gt;の様子をご覧ください。</p> <p>研修テーマ：100分授業の授業設計研修会</p> <ul style="list-style-type: none"><li>授業を構成する上で意識すべきポイント</li><li>主体的な学びをさせるためのポイント</li><li>教員からの事前質問への回答（+10分の使い方・アクティブラーニングの取り入れかた）</li></ul> <p><a href="#">こちらをクリック</a></p> | <p>※kyoritsuIDにログインの上クリックしてください</p> <p>FD研修会②&lt;2020/11/26開催&gt;の様子をご覧ください。</p> <p>研修テーマ：分かりやすく解説！100分授業の授業デザインの具体例</p> <ul style="list-style-type: none"><li>+10分の効果的な使い方</li><li>授業を構成するためのポイント</li><li>話し合い（グループワーク）</li><li>話し合うための環境づくり</li><li>学生のリアクションを把握する方法</li><li>学生が授業についてこれる情報提示のポイント</li></ul> |



### 3. PDCAサイクルの実質化への取り組み

#### c. IR情報の活用

#### 2024年度自己点検・評価活動に関する実施方針 (※一部抜粋及び要約しています)

- 2024年度の自己点検・評価は、「前年度の自己点検・評価結果に基づく改善計画に関する点検・評価」と「アセスメントプラン及び大学評価基準に基づく点検・評価」の二つの相補的な点検・評価から、複眼的な評価システムを構築・実施している。

I. 学長からの改善指示に対する実施計画の点検・評価

II. 各実施委員会で設定した重点計画の点検・評価

改善計画に関する  
点検・評価

III. 点検・評価項目に基づく点検・評価

アセスメントプラン  
及び大学評価基準に  
基づく点検・評価

### 3. PDCAサイクルの実質化への取り組み

2024年度自己点検・評価項目＜全学組織向け＞

大学基準協会が定める評価項目や評価の視点を参考に、全学自己点検・評価委員会で協議のうえ、本学用にアレンジ。

| No. | 基準         | 点検・評価項目                                                                             | 担当                        | (参考) 大学基準協会が定める評価項目、評価の視点                                                  |                                                                                                                                                                                                                            |
|-----|------------|-------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------|----------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|     |            |                                                                                     |                           | 評価項目                                                                       | 評価の視点                                                                                                                                                                                                                      |
| 1   | 基準1 理念・目的  | 中期計画はPDCAサイクルが適切に機能し、ビジョン2032の達成に向けて順調に進捗しているか。                                     | 法人事務部（経営企画G）              | 大学として中・長期の計画その他の諸施策を策定していること。                                              | ・中・長期の計画その他の諸施策の進捗及び達成状況を定期的に検証しているか。                                                                                                                                                                                      |
| 2   | 基準2 内部質保証  | 「内部質保証に関する方針」「アセスメントプラン」「実施方針」「点検・評価項目」は一貫していたか。また、課題を明らかにする内容になっているか。              | 全学自己点検・評価委員会              | 内部質保証のための方針を適切に設定していること。また、教育の充実と学習成果の向上を図るために、内部質保証システムを整備し、適切に機能させていること。 | ・内部質保証のための全学的な方針において、基本的な考え方、体制（全学内部質保証推進組織をはじめとした諸組織の位置づけ、役割や責任）や手続を明らかにしているか。                                                                                                                                            |
| 3   | 基準2 内部質保証  | 改善計画は適切に実行され、また、それによって課題は解決したか。                                                     | 全学自己点検・評価委員会              | 内部質保証のための方針を適切に設定していること。また、教育の充実と学習成果の向上を図るために、内部質保証システムを整備し、適切に機能させていること。 | ・教育の企画・設計とその実施、自己点検・評価及び改善活動に関して、全学的な調整や支援を行っているか。<br>※ 具体的な例<br>・3つの方針の策定の調整・支援。<br>・体系的・組織的な教育課程の編成に向けた調整・支援。<br>・効果的な教育方法の開発とその運用のための調整・支援。<br>・学習成果の可視化に向けた調整・支援。<br>・自己点検・評価の実施やその結果の活用に向けた調整・支援。                     |
| 4   | 基準2 内部質保証  | 教職課程に関して全学的組織が組織的にマネジメントし、また、PDCAサイクルを推進しているか。                                      | 全学教育推進機構（共通教育センター）        | 内部質保証のための方針を適切に設定していること。また、教育の充実と学習成果の向上を図るために、内部質保証システムを整備し、適切に機能させていること。 | ・大学全体規模や学部、研究科その他の組織（教職課程を実施する全学的組織を含む）における自己点検・評価をそれぞれ定期的の実施し、その結果を活用して改善・向上に取り組んでいるか。                                                                                                                                    |
| 5   | 基準2 内部質保証  | 外部評価委員会及び学生評価委員会に対する点検・評価項目は適切であったか。また、それぞれの意見を全学レベルあるいは学位プログラムレベルの自己点検・評価に活用しているか。 | 全学自己点検・評価委員会              | 内部質保証のための方針を適切に設定していること。また、教育の充実と学習成果の向上を図るために、内部質保証システムを整備し、適切に機能させていること。 | ・学部、研究科その他の組織における自己点検・評価の客観性、妥当性を高めるために、学生の意見や外部の視点を取り入れるなどの工夫をしているか。                                                                                                                                                      |
| 6   | 基準2 内部質保証  | 行政機関、認証評価機関等から指摘事項があった場合、それに適切に対応しているか。                                             | 全学自己点検・評価委員会              | 内部質保証のための方針を適切に設定していること。また、教育の充実と学習成果の向上を図るために、内部質保証システムを整備し、適切に機能させていること。 | ・行政機関、認証評価機関等から指摘事項があった場合、それに適切に対応しているか。                                                                                                                                                                                   |
| 7   | 基準2 内部質保証  | 内部質保証システムが適切に機能していることを確認する仕組みが確立しているか。また、機能していない箇所が発見された場合に適切な改善を促す仕組みが確立しているか。     | 全学自己点検・評価委員会              | 内部質保証システムの有効性及び適切性について定期的に点検・評価を行い、改善・向上に向けた取り組みを行っていること。                  | ・内部質保証システムの整備や機能の状況を定期的に点検・評価し、その結果に基づき、教育の質を保证する仕組みとしてより有効に機能できるよう改善・向上に取り組んでいるか。                                                                                                                                         |
| 8   | 基準3 教育研究組織 | 大学の理念・目的を踏まえ、また、学問の動向や社会的要請等に配慮したうえで、教育研究組織（学部・研究科や附置研究所、センター等）を構成しているか。            | 大学事務部（教学企画G）、法人事務部（経営企画G） | 大学の理念・目的に照らして、学部・研究科、附置研究所、センターその他の組織の設置状況が適切であること。                        | ・大学の理念・目的を踏まえ、また、学問の動向や社会的要請等に配慮したうえで、教育研究組織（学部・研究科や附置研究所、センター等）を構成しているか。                                                                                                                                                  |
| 9   | 基準4 教育・学習  | 各学位プログラムにおいて、DPを達成するためにCPに従って体系的なカリキュラム編成を行っているか、また、授業運営を行っているか。                    | 全学自己点検・評価委員会              | 学習成果の達成につながるよう各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成していること。                       | ・学習成果の達成につながるよう、教育課程の編成・実施方針に沿って授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。<br>※ 具体的な例<br>・授与する学位と整合し専門分野の学問体系等にも適った授業科目の開講。<br>・各授業科目の位置づけ（主要授業科目の類別等）と到達目標の明確化。<br>・学習の順次性に配慮した授業科目の年次・学期配当及び学びの過程の可視化。<br>・学生の学習時間の考慮とそれを踏まえた授業期間及び単位の設定 |
| 10  | 基準4 教育・学習  | ICTを利用した遠隔授業に関して全学的な方針を定め、その方針に従って適切に授業を運営しているか。                                    | 全学教育推進機構（機構本体、高等教育開発センター） | 課程修了時に求められる学習成果の達成のために適切な授業形態、方法をとっていること。また、学生                             | ・ICTを利用した遠隔授業を提供する場合、自らの方針に沿って、適した授業科目に用いられているか。また、効果的な授業となるような工夫を講じ、期待された効果                                                                                                                                               |



### 3. PDCAサイクルの実質化への取り組み

2024年度自己点検・評価項目＜学位プログラム向け＞

| No. | 点検・評価項目                 | 評価指標及び評価の視点                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 | Defect (D)<br>[第1段階]                                                                                         | Weak (W)<br>[第2段階]                                                                                                                                      | Minimal (M)<br>[第3段階]                                                                                                                                                                   | Satisfactory (S)<br>[第4段階]                                                                                                                                                            | Excellent (E)<br>[第5段階]                                                                                                                                                                                                        |
|-----|-------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1   | DP達成状況の確認               | <ul style="list-style-type: none"> <li>■DP自己評価（リーダーシップ以外）：DP自己評価について、経年推移や学部間比較等に基づいて適切な水準であるか、また、その見解を説明してください。</li> <li>■DP到達度：学生のDP到達度について、経年推移や学部間比較等に基づいて適切な水準であるか、また、その見解を説明してください。</li> <li>■GPA：GPAについて、経年推移や学部間比較等に基づいて適切な水準であるか、また、その見解を説明してください。</li> <li>■国家試験等合格状況（※食養、児童、看護のみ）：合格率について、経年推移や学部間比較等に基づいて適切な水準であるか、また、その見解を説明してください。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・DPに定める資質・能力の修得状況を確認していない。</li> </ul>                                 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・DPに定める資質・能力の修得状況を確認している。</li> <li>・「DP自己評価」「DP到達度」「国家試験合格状況 ※食養、児童、看護のみ」「GPA」に基づき、DPを達成しているとは判定できない。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・DPに定める資質・能力の修得状況を確認している。</li> <li>・「DP自己評価」「学修成果満足度」「DP到達度」「国家試験合格状況 ※食養、児童、看護のみ」「アセスメント科目の成績」「GPA」に基づき、概ね全ての項目においてDPを達成できていると判定できる。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・DPに定める資質・能力の修得状況を確認している。</li> <li>・「DP自己評価」「学修成果満足度」「DP到達度」「国家試験合格状況 ※食養、児童、看護のみ」「アセスメント科目の成績」「GPA」に基づき、全ての項目においてDPを達成できていると判定できる。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・DPに定める資質・能力の修得状況を確認している。</li> <li>・「DP自己評価」「学修成果満足度」「DP到達度」「国家試験合格状況 ※食養、児童、看護のみ」「アセスメント科目の成績」「GPA」に基づき、全ての項目においてDPを達成できていると判定できる。</li> <li>・アセスメントプランに定めるその他の項目で特筆すべき点がある。</li> </ul> |
| 2   | リーダーシップ教育の実施状況及び修得状況の評価 | <ul style="list-style-type: none"> <li>■DP自己評価（リーダーシップ以外）：DP自己評価について、経年推移や学部間比較等に基づいて適切な水準であるか、また、その見解を説明してください。</li> <li>■DP到達度：学生のDP到達度について、経年推移や学部間比較等に基づいて適切な水準であるか、また、その見解を説明してください。</li> <li>■GPA：GPAについて、経年推移や学部間比較等に基づいて適切な水準であるか、また、その見解を説明してください。</li> <li>■国家試験等合格状況（※食養、児童、看護のみ）：合格率について、経年推移や学部間比較等に基づいて適切な水準であるか、また、その見解を説明してください。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・DPに定める資質・能力の修得状況を確認していない。</li> </ul>                                 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・DPに定める資質・能力の修得状況を確認している。</li> <li>・「DP自己評価」「DP到達度」「国家試験合格状況 ※食養、児童、看護のみ」「GPA」に基づき、DPを達成しているとは判定できない。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・DPに定める資質・能力の修得状況を確認している。</li> <li>・「DP自己評価」「学修成果満足度」「DP到達度」「国家試験合格状況 ※食養、児童、看護のみ」「アセスメント科目の成績」「GPA」に基づき、概ね全ての項目においてDPを達成できていると判定できる。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・DPに定める資質・能力の修得状況を確認している。</li> <li>・「DP自己評価」「学修成果満足度」「DP到達度」「国家試験合格状況 ※食養、児童、看護のみ」「アセスメント科目の成績」「GPA」に基づき、全ての項目においてDPを達成できていると判定できる。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・DPに定める資質・能力の修得状況を確認している。</li> <li>・「DP自己評価」「学修成果満足度」「DP到達度」「国家試験合格状況 ※食養、児童、看護のみ」「アセスメント科目の成績」「GPA」に基づき、全ての項目においてDPを達成できていると判定できる。</li> <li>・アセスメントプランに定めるその他の項目で特筆すべき点がある。</li> </ul> |
| 3   | 満足度                     | <ul style="list-style-type: none"> <li>■修了時/卒業時総合満足度：所属学生は本学に対して満足しているか、満足度の水準を踏まえて見解を説明してください。</li> <li>■修了時/卒業時各種満足度の改善施策：所属学生が満足していない点に対してどのような改善施策を実施したか。また、各種満足度の改善状況を踏まえ、改善施策の効果について見解を説明してください。</li> </ul>                                                                                                                                           | <ul style="list-style-type: none"> <li>・満足度の水準を踏まえて見解を説明していない。</li> </ul>                                    | <ul style="list-style-type: none"> <li>・満足度の水準を踏まえて見解を説明している。</li> </ul>                                                                                | <ul style="list-style-type: none"> <li>・満足度の水準を踏まえて見解を説明している。</li> </ul>                                                                                                                | <ul style="list-style-type: none"> <li>・満足度の水準を踏まえて見解を説明している。</li> </ul>                                                                                                              | <ul style="list-style-type: none"> <li>・満足度の水準を踏まえて見解を説明している。</li> </ul>                                                                                                                                                       |
| 4   | DP達成状況の改善施策             | <ul style="list-style-type: none"> <li>■改善施策：DPの達成状況を改善するためにどのような考えに基づいてどのような施策を実施したか。また、その成果を説明してください。</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                                          | <ul style="list-style-type: none"> <li>・DPの達成状況を改善するためにどのような考えに基づいてどのような施策を実施したか。また、その成果を説明していない。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・DPの達成状況を改善するためにどのような考えに基づいてどのような施策を実施したか。また、その成果を説明している。</li> </ul>                                             | <ul style="list-style-type: none"> <li>・DPの達成状況を改善するためにどのような考えに基づいてどのような施策を実施したか。また、その成果を説明している。</li> </ul>                                                                             | <ul style="list-style-type: none"> <li>・DPの達成状況を改善するためにどのような考えに基づいてどのような施策を実施したか。また、その成果を説明している。</li> </ul>                                                                           | <ul style="list-style-type: none"> <li>・DPの達成状況を改善するためにどのような考えに基づいてどのような施策を実施したか。また、その成果を説明している。</li> </ul>                                                                                                                    |
| 5   | 体系的なカリキュラムの設計           | <ul style="list-style-type: none"> <li>■体系的・順次性：（専修やコースが分岐している場合はそれぞれについて、）DPを達成するためにどのようなカリキュラムを組み立てているかをカリキュラム・ツリーや履修系統図の状態を踏まえつつ説明してください。</li> <li>■カリキュラムの点検：カリキュラムの点検を行っているか。また、行っている場合はどのような考えに基づいてどのように点検しているか。</li> </ul>                                                                                                                           | <ul style="list-style-type: none"> <li>・カリキュラムの体系的・順次性が確保されていない。</li> </ul>                                  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・カリキュラムの体系的・順次性が概ね確保されているが、一部不明確なところがある。あるいは科目数が多いなどの課題がある。</li> </ul>                                           | <ul style="list-style-type: none"> <li>・カリキュラムの体系的・順次性が確保されている。</li> </ul>                                                                                                              | <ul style="list-style-type: none"> <li>・カリキュラムの体系的・順次性が確保されている。</li> </ul>                                                                                                            | <ul style="list-style-type: none"> <li>・カリキュラムの体系的・順次性が確保されている。</li> </ul>                                                                                                                                                     |

点検・評価項目ごとに最低限必要な水準（第3段階）に達しているか、どのような改善すべき点や評価できる点があるかを  
確認するためのルーブリックを策定

アセスメントプランや大学基準協会の評価項目・評価の視点を参考に、  
各学位プログラムにおいて「DPが達成できているか」、「DPを達成するためのプロセスが適切に設計され、かつ設計通りに運用されているか」を確認するための点検・評価項目や評価指標、評価の視点を策定

# 3. PDCAサイクルの実質化への取り組み

## 2024年度 各部門の点検・評価項目に基づく自己点検・評価結果

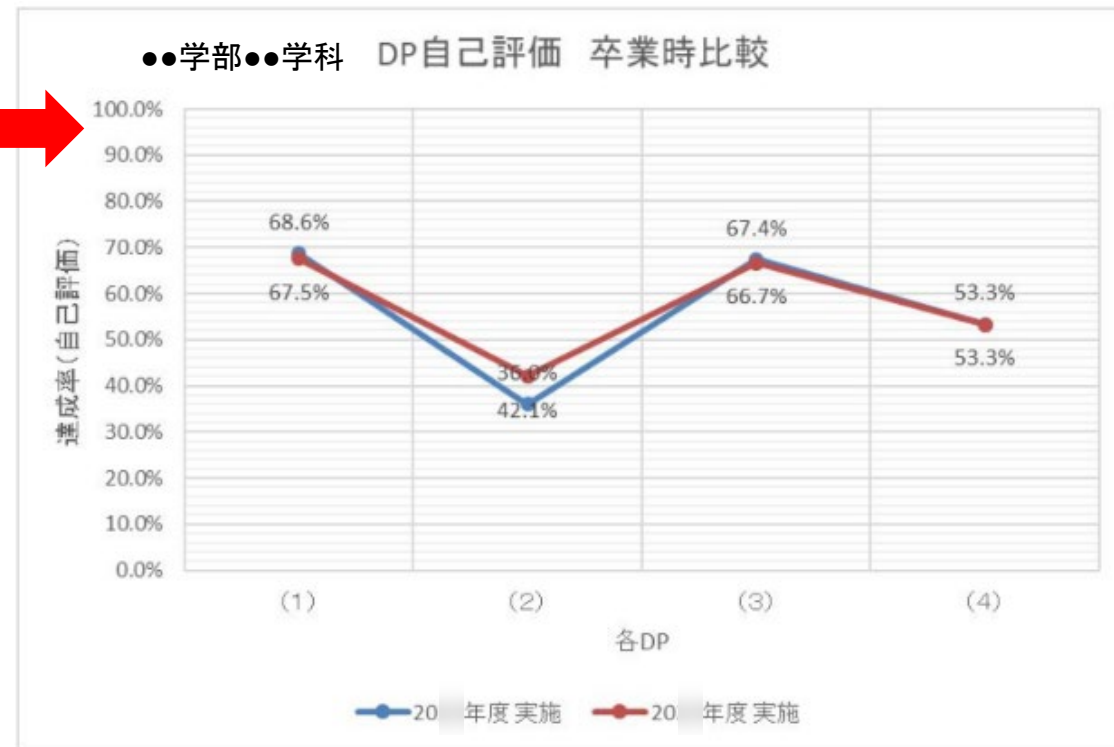
...1～2部門  
...3～4部門  
...5～6部門  
...7部門以上

| No. | 点検・評価項目                 | 評価指標及び評価の視点                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      | Defect (D)<br>[第1段階]                           | Weak (W)<br>[第2段階]                                                                                         | Minimal (M)<br>[第3段階]                                                                                                                      | Satisfactory (S)<br>[第4段階]                                                                                                               | Excellent (E)<br>[第5段階]                                                                                                                                                         |
|-----|-------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1   | DP達成状況の確認               | <p>■DP自己評価(リーダーシップ以外): DP自己評価について、経年推移や学部間比較等に基づいて適切な水準であるか、また、その見解を説明してください。</p> <p>■DP到達度: 学生のDP到達度について、経年推移や学部間比較等に基づいて適切な水準であるか、また、その見解を説明してください。</p> <p>■GPA: GPAについて、経年推移や学部間比較等に基づいて適切な水準であるか、また、その見解を説明してください。</p> <p>■国家試験等合格状況(※食育、児童、看護のみ): 合格率について、経年推移や学部間比較等に基づいて適切な水準であるか、また、その見解を説明してください。</p> <p>以上を踏まえ、第1段階～第5段階で評価してください。</p> | <p>・DPに定める資質・能力の修得状況を確認していない。</p>              | <p>・DPに定める資質・能力の修得状況を確認している。</p> <p>・「DP自己評価」「DP到達度」「国家試験合格状況 ※食育、児童、看護のみ」「GPA」に基づき、DPを達成しているとは判定できない。</p> | <p>・DPに定める資質・能力の修得状況を確認している。</p> <p>・「DP自己評価」「学修成果満足度」「DP到達度」「国家試験合格状況 ※食育、児童、看護のみ」「アセスメント科目の成績」「GPA」に基づき、概ね全ての項目においてDPを達成できていると判定できる。</p> | <p>・DPに定める資質・能力の修得状況を確認している。</p> <p>・「DP自己評価」「学修成果満足度」「DP到達度」「国家試験合格状況 ※食育、児童、看護のみ」「アセスメント科目の成績」「GPA」に基づき、全ての項目においてDPを達成できていると判定できる。</p> | <p>・DPに定める資質・能力の修得状況を確認している。</p> <p>・「DP自己評価」「学修成果満足度」「DP到達度」「国家試験合格状況 ※食育、児童、看護のみ」「アセスメント科目の成績」「GPA」に基づき、全ての項目においてDPを達成できていると判定できる。</p> <p>・アセスメントプランに定めるその他の項目で特筆すべき点がある。</p> |
|     |                         |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |                                                |                                                                                                            | <p>・家政学部被服学科<br/>・家政学部児童学科<br/>・文芸学部<br/>・国際学研究所<br/>・国際学部</p>                                                                             | <p>・家政学部食物栄養学科<br/>・文芸学研究所<br/>・看護学研究所<br/>・看護学部<br/>・ビジネス学部<br/>・建築・デザイン学部<br/>・生活科学科<br/>・文科</p>                                       | <p>・家政学研究科</p>                                                                                                                                                                  |
| 2   | リーダーシップ教育の実施状況及び修得状況の評価 | <p>■DP自己評価(リーダーシップのみ): DP自己評価について、経年推移や学部間比較等に基づいて適切な水準であるか、また、その見解を説明してください。</p> <p>■リーダーシップ教育の実施状況: 共立リーダーシップを修得させるために学位プログラム単位で組織的に取り組んでいることはあるかを説明してください。</p> <p>■リーダーシップの修得状況の評価: リーダーシップが修得できているかを測定するためにどのような工夫を行っているかを説明してください。</p> <p>以上を踏まえ、第1段階～第5段階で評価してください。</p>                                                                    | <p>・リーダーシップを伸ばす取り組みを組織的に行っていない。</p>            | <p>・リーダーシップを伸ばす取り組みをまだ組織的に行っていないが、検討を進めている。</p>                                                            | <p>・リーダーシップを伸ばす取り組みを組織的に行っている。</p>                                                                                                         | <p>・リーダーシップを伸ばす取り組みを組織的に行っている。</p> <p>・リーダーシップの修得状況の評価する工夫を組織的に行っている。</p>                                                                | <p>・リーダーシップを伸ばす取り組みを組織的に行っている。</p> <p>・リーダーシップの修得状況の評価する工夫を組織的に行っている。</p> <p>・リーダーシップを伸ばすためのグッドプラクティスや課題を組織内で共有し、リーダーシップ教育の改善に努めている。</p>                                        |
|     |                         |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |                                                | <p>・文芸学部</p>                                                                                               | <p>・文芸学研究所<br/>・国際学研究所<br/>・国際学部<br/>・看護学研究所<br/>・建築・デザイン学部<br/>・文科</p>                                                                    | <p>・家政学研究科<br/>・家政学部食物栄養学科<br/>・生活科学科</p>                                                                                                | <p>・家政学部被服学科<br/>・家政学部児童学科<br/>・看護学部<br/>・ビジネス学部</p>                                                                                                                            |
| 3   | 満足度                     | <p>■修了時/卒業時総合満足度: 所属学生は本学に対して満足しているか、満足度の水準を踏まえて見解を説明してください。</p> <p>■修了時/卒業時各種満足度の改善施策: 所属学生が満足していない点に対してどのような改善施策を実施したか、また、各種満足度の改善状況を踏まえ、改善施策の効果について見解を説明してください。</p> <p>以上を踏まえ、第1段階～第5段階で評価してください。</p>                                                                                                                                         | <p>・修了時/卒業時の総合満足度で本学を卒業して満足している学生が8割未満である。</p> | <p>・修了時/卒業時の総合満足度で本学を卒業して満足している学生が9割未満である。</p>                                                             | <p>・修了時/卒業時いずれも総合満足度で本学を卒業して満足している学生が9割以上である。</p> <p>・前年度の各種満足度の結果に基づいて改善施策を実施している。</p>                                                    | <p>・修了時/卒業時いずれも総合満足度で本学を卒業して満足している学生が9割以上である。</p> <p>・前年度の各種満足度の結果に基づいて改善施策を実施し、その成果と考えられる満足度の改善が確認できる。</p>                              | <p>・修了時/卒業時いずれも総合満足度で本学に入学して満足している学生が9割以上で、且つ非常に満足しているが9割以上である。</p> <p>・前年度の各種満足度の結果に基づいて改善施策を実施し、その成果と考えられる満足度の改善が確認できる。</p>                                                   |
|     |                         |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |                                                | <p>・家政学部被服学科</p>                                                                                           | <p>・文科</p>                                                                                                                                 | <p>・家政学研究科<br/>・家政学部食物栄養学科<br/>・家政学部児童学科<br/>・国際学研究所<br/>・国際学部<br/>・看護学研究所<br/>・看護学部<br/>・生活科学科</p>                                      | <p>・文芸学研究所<br/>・文芸学部<br/>・ビジネス学部<br/>・建築・デザイン学部</p>                                                                                                                             |

### 3. PDCAサイクルの実質化への取り組み

#### c. IR情報の活用

| No. | 点検・評価項目                 | 評価指標及び評価の視点                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |                    |
|-----|-------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------|
| 1   | DP達成状況の確認               | <p>■DP自己評価（リーダーシップ以外）：DP自己評価について、経年推移や学部間比較等に基づいて適切な水準であるか、また、その見解を説明してください。</p> <p>■DP到達度：学生のDP到達度について、経年推移や学部間比較等に基づいて適切な水準であるか、また、その見解を説明してください。</p> <p>■GPA：GPAについて、経年推移や学部間比較等に基づいて適切な水準であるか、また、その見解を説明してください。</p> <p>■国家試験等合格状況（※食営、児童、看護のみ）：合格率について、経年推移や学部間比較等に基づいて適切な水準であるか、また、その見解を説明してください。</p> <p>以上を踏まえ、第1段階～第5段階で評価してください。</p> | ・DPに定める            |
| 2   | リーダーシップ教育の実施状況及び修得状況の評価 | <p>■DP自己評価（リーダーシップのみ）：DP自己評価について、経年推移や学部間比較等に基づいて適切な水準であるか、また、その見解を説明してください。</p> <p>■リーダーシップ教育の実施状況：共立リーダーシップを修得させるために学位プログラム単位で組織的に取り組んでいることはあるかを説明してください。</p> <p>■リーダーシップの修得状況の評価：リーダーシップが修得できているかを測定するためにどのような工夫を行っているかを説明してください。</p> <p>以上を踏まえ、第1段階～第5段階で評価してください。</p>                                                                   | ・リーダーシ<br>組織的に行って  |
| 3   | 満足度                     | <p>■修了時/卒業時総合満足度：所属学生は本学に対して満足しているか、満足度の水準を踏まえて見解を説明してください。</p> <p>■修了時/卒業時各種満足度の改善施策：所属学生が満足していない点に対してどのような改善施策を実施したか。また、各種</p>                                                                                                                                                                                                             | ・修了時・卒業<br>卒業して満足し |



### 3. PDCAサイクルの実質化への取り組み

#### c. IR情報の活用

|   |                 |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |                                        |
|---|-----------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------|
| 6 | 体系的なカリキュラムの運用実態 | <p>■主要授業科目の履修率：各部門で定めた主要授業科目の履修率に基づき、それぞれの学生がDPを達成する上で必要な科目を適切に履修しているか見解を説明してください。※2025年度設定予定の科目のみで結構です。</p> <p>■虫食い履修：（専修・コース等が分岐する場合は最小単位ごとに、）履修系統図上で各科目の履修率に基づき、体系性の保持に関する見解を説明してください。</p> <p>■順次性の確保：配当年次の選及状況に基づいて、順次性の保持に関する見解を説明してください。</p> <p>■体系性を意識した履修：学生が体系性・順次性を意識して授業を履修しているかを授業評価アンケート「当該科目のDPとの関連性や履修系統図上の位置づけに対する意識」の結果に基づいて見解を説明してください。</p> <p>以上を踏まえ、第1段階～第5段階で評価してください。</p> | <p>・DPを達成が十分でない</p> <p>・配当年次を散見される</p> |
| 7 | 教員組織体制          | <p>■教員数(基本教員数,S/T比)：基本教員数を遵守しているか。また、S/T比について、授業の質（特に実習や演習等）を維持する上で適切であるか見解を説明してください。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                       | <p>・教員数、年において課題</p>                    |

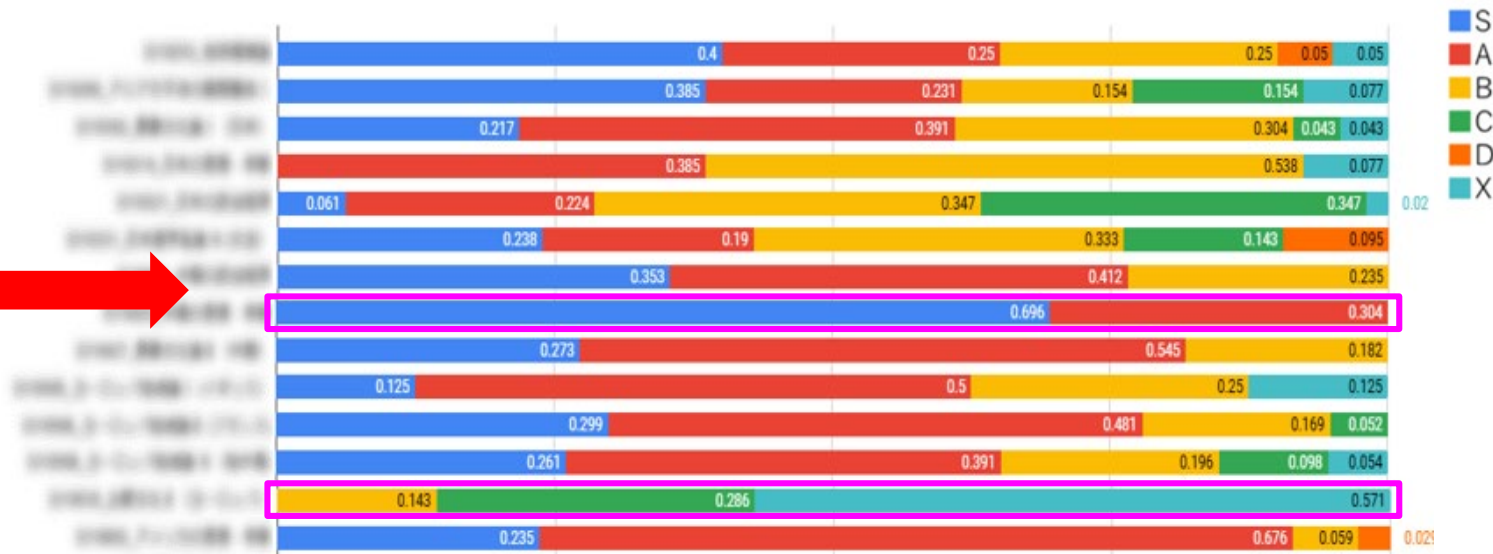
●学部●学科 20XX年度卒業生の専門科目履修状況

| QS_科目別履修人数（数値：履修中または修得済み人数の累計） |       |      |      |       |     |       |     |
|--------------------------------|-------|------|------|-------|-----|-------|-----|
| 配当学年                           | 科目コード | 科目名称 | 開講年度 |       |     |       | 総計  |
|                                |       |      | 20   | (1年次) | 20  | (2年次) |     |
| 1                              |       |      | 340  | 10    | 32  | 3     | 385 |
|                                |       |      | 341  | 12    | 32  |       | 385 |
|                                |       |      | 340  | 11    | 33  | 1     | 385 |
|                                |       |      | 56   | 28    | 35  | 14    | 133 |
|                                |       |      | 34   | 15    | 19  | 5     | 73  |
|                                |       |      | 56   | 41    | 17  | 8     | 122 |
|                                |       |      | 13   | 71    | 46  | 23    | 153 |
|                                |       |      | 44   | 27    | 13  | 8     | 92  |
|                                |       |      | 73   | 16    | 9   | 2     | 100 |
|                                |       |      | 164  | 25    | 41  | 14    | 244 |
|                                |       |      | 38   | 18    | 10  | 12    | 78  |
|                                |       |      | 42   | 26    | 7   | 5     | 80  |
|                                |       |      | 44   | 10    | 13  | 7     | 74  |
|                                |       |      | 47   | 10    | 8   | 12    | 77  |
|                                |       |      | 75   | 23    | 16  | 2     | 116 |
|                                |       |      | 93   | 41    | 126 | 28    | 288 |
|                                |       |      | 78   | 27    | 23  | 52    | 180 |
|                                |       |      | 76   | 41    | 35  | 25    | 177 |

### 3. PDCAサイクルの実質化への取り組み

#### c. IR情報の活用

●学部●学科 20XX年度科目別成績評価割合



|    |                   |                                                                                                                                                                                                                                                                               |                            |
|----|-------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------|
| 9  | 授業科目ごとの知識・能力の修得状況 | <p>■科目ごとの知識・能力の修得実感：科目ごとの到達目標や単位習得目標で定めている修得すべき知識・能力の修得実感について、授業評価アンケートの結果に基づいて、DPを達成するうえで必要な知識・能力の修得が進んでいるか見解を示してください。</p> <p>■成績評価：科目ごとの知識・能力の修得状況について、成績評価の結果に基づいて、DPを達成するうえで必要な知識・能力の修得が進んでいるか見解を示してください。なお、主要授業科目の成績については特記してください。</p> <p>以上を踏まえ、第1段階～第5段階で評価してください。</p> | <p>・修得（B）</p> <p>・成しない</p> |
| 10 | 成績評価の確認           | <p>■成績評価の確認方法：各科目で適切な成績評価を行うために学位プログラム単位でどのような工夫を行っているかを説明してください。</p>                                                                                                                                                                                                         | <p>・成し、</p>                |

### 3. PDCAサイクルの実質化への取り組み

#### ＜改善実績＞

|              |     | 2021年度 | 2022年度 | 2023年度 | 2024年度 |
|--------------|-----|--------|--------|--------|--------|
| 学長改善指示への対応計画 | 計画数 | 17件    | 21件    | 28件    | 27件    |
|              | 達成数 | -      | -      | -      | 13件    |
| 重点計画         | 計画数 | -      | -      | 50件    | 56件    |
|              | 達成数 | -      | -      | 31件    | 40件    |
| 合計           | 計画数 | 17件    | 21件    | 78件    | 83件    |
|              | 達成数 | -      | -      | 31件    | 53件    |

### 3. PDCAサイクルの実質化への取り組み

#### d. 組織基盤の構築

#### これまでに本学で開催された教学マネジメントに関するSD研修会

| 回 | 日時                                         | 場所                                     | テーマ                                                 | 講師                                                     | 参加者<br>大学企画課職員除く                  |
|---|--------------------------------------------|----------------------------------------|-----------------------------------------------------|--------------------------------------------------------|-----------------------------------|
| 1 | 2023年<br>3月9日（木）<br>13:30-16:00            | 共立女子大学                                 | トップ・ミドルマネジメントの推進                                    | 山本啓一先生（北陸大学）                                           | 32名<br>執行部 4名<br>教員 20名<br>事務局 8名 |
| 2 | 2023年<br>9月1日（金）<br>13:00-<br>2日（土）12:00   | THE<br>SAIHOKUKAN<br>HOTEL<br>（長野県長野市） | 共立の教育力を高めるために取る<br>べきマネジメント/リーダーシップとは               | 山本啓一先生（北陸大学）<br>日下恭輔先生（北陸大学）                           | 23名<br>執行部 4名<br>教員 11名<br>事務局 8名 |
| 3 | 2024年<br>3月21日（木）<br>13:00-17:30           | 共立女子大学                                 | 一新体制でのマネジメントと<br>リーダーシップ                            | 山本啓一先生（北陸大学）                                           | 39名<br>執行部 5名<br>教員 27名<br>事務局 7名 |
| 4 | 2024年<br>9月13日（金）<br>13:00-<br>14日（土）12:00 | オックスカナルパーク<br>ホテル<br>（富山県富山市）          | 一教育力向上を目指して一                                        | 山本啓一先生（北陸大学）<br>藤野博行先生（鹿児島県立短期<br>大学）<br>山本 幸一先生（明治大学） | 27名<br>執行部 5名<br>教員 14名<br>事務局 8名 |
| 5 | 2025年<br>2月16日（日）<br>14:00-17:30           | 共立女子大学                                 | 大学リーダーシップ研究会<br>第6回公開研究会<br>大学改革を推進する実践的リー<br>ダーシップ | 佐藤 浩章先生（東京大学）<br>山本啓一先生（北陸大学）<br>石川勝彦先生（鳴門教育大学）<br>ほか  | 31名<br>執行部 4名<br>教員 19名<br>事務局 6名 |

### 3. PDCAサイクルの実質化への取り組み

#### d. 組織基盤の構築

#### 教学マネジメントに関するSD研修会 オフキャンパス編のフロー



## 4. 今後に向けて

### 1) 大学院の定員管理に関する改善（改善課題より）

- ・ 学長の改善指示を起点として、「教員の研究力」を教育につなげるための改革・改善

### 2) 共立リーダーシップのさらなる進化

- ・ 専門教育課程における共立リーダーシップ教育の促進
- ・ リーダーシップ教育効果の評価（可視化）・共立リーダーシップGPの発展と外部発信

### 3) 学生参画による内部質保証の強化

- ・ 在学生を中心としたステークホルダーに対する調査やアセスメントの継続的な実施と教育改善への活用
- ・ 「学生評価委員会」の充実と浸透（建設的なムーブメントの定着）

### 4) 内部質保証システムの継続的なアップデート

- ・ DP（ディプロマポリシー）達成の時間軸を加味した評価を設ける（外部評価委員会指摘）
- ・ エビデンスデータに基づく点検・評価、改善につなげる蓄積

ご清聴ありがとうございました。

共立の屋上から見た都心の風景

赤坂・青山方面

皇居（北の丸公園）

新宿

武道館

飯田橋駅方面

後樂園  
（東京ドーム方面）

